

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年4月4日

【評価実施概要】

事業所番号	1174500577
法人名	社会福祉法人 花園公益会
事業所名	フラワーヴィラグループホーム
所在地	〒369-1246 埼玉県深谷市小前田2677 (電話) 048-584-5550

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年3月27日

【情報提供票より】(平成 21年 3月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 3人, 非常勤 6人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 1階建ての1階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり 1,200円		

(4) 利用者の概要(3月16日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.7 歳	最低	61 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	埼玉よりい病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、地域の中で認知症ケアの必要性を感じたことから開設された1ユニットのグループホームであり、地域と盛んに交流し、地域の中のホームとして定着している。社会福祉法人の運営する小規模多機能施設や同敷地内には特別養護老人ホーム、デイサービス、ホームヘルプサービス等があり、互いに連携している。緊急時には法人の嘱託医や看護師が対応し、安心できる医療体制がある。庭へは自由に出入りすることができ、チャボを飼ったり花や草木を楽しむことができる。回遊できる廊下やフロアは広く、採光も良い。職員も明るく笑顔でケアにあたり、利用者がゆっくり、ゆったり、のんびりと心穏やかに楽しく日々を過ごせるように支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価での改善点はなかったが、評価項目を振り返り、日々サービスの質の維持、向上に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員に自己評価項目を記入してもらい、管理者がまとめた。職員は文書化することで、自分自身の考え方を確認したり振り返る機会となり、日々のケアに取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2か月に1回開催され、ホームの現状報告や行事の説明をして協力を得たり、重度化した場合や終末期のケアについても説明し理解を得ている。会議の開催回数を重ねるとともに協力体制が強化され、参加者の交流の場としても喜ばれている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>法人全体の家族会が年1回開催されている。また、ホームでは、利用者の殆どが地域の人であることから、随時面会の多い日曜日に電話で呼びかけて家族会を開催し、意見交換を行っている。行事の協力を得て、重度化に対する不安に対応したり、利用者に対する思いや支援について相互の理解を深める機会となっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所の人達が頻繁にホームを訪れたり、保育園、小学生との交流があるほか、中学生の職場体験も受け入れている。また、自治会に加入し、道路の除草やゴミ拾いに参加したり地域の夏祭り等へ参加している。法人全体の納涼祭には地域の人達にボランティアで参加してもらったり、災害時の協力を得るなど盛んに交流している。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に事業所独自で「地域の中で、ゆっくり、ゆったり、のんびりと」という理念をつくりあげ、日々のケアの中での取り組みを継続している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と共に人格を尊重し、心穏やかに楽しく過ごせるように支援する方針を玄関とフロアに掲示したり、会議で確認し合って共有し、日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人達によるボランティアの協力を得て、同敷地内にある法人全体の納涼祭等の行事を実施したり、地元の夏祭りに参加している。また、自治会に加入して、道路の草取りやゴミ拾いにも参加するほか、保育園や小学校と交流を持ったり中学生の体験学習の受け入れも行い、盛んに交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価による改善点はなかったが、今回の自己評価票を印刷して全職員に配布し記入してもらい管理者がまとめた。職員は自己評価を記入することで、改めて基本から自分を振り返る機会となっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催されている。会議では、ホームの現状報告と外部評価や行事の説明を行い、協力体制が強化されている。また、重度化してきた場合や終末ケアについても説明し、家族及びメンバーから安心と理解が得られている。メンバーは交流の場として会議の開催を楽しみにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的にホームの現状を市へ報告したり、訪問を依頼して情報交換を行っている。市と連絡をとりながら地域のグループホームの研修に協力したり、管理者がキャラバンメイトに加わることで連携がとれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	殆どの利用者が地域の人であることから面会も多く、面会時に日常の様子や健康状態を報告し、小遣い帳を見てもらっている。また、本人が写っている写真も便りに載せて家族に渡し喜ばれている。利用料を面会時に納入する方も多い。面会がない場合のみ郵送で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体の合同家族会を年1回開催し交流している。ホームとしては、日曜日に面会が多いので、2~3人面会者がいる時には、他の家族にも電話で連絡して集まってもらい、家族会を開いて意見交換、交流を行っている。苦情等はないが双方の理解を深める機会となっている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はない。職員全員が職員の入れ替わることで生じる利用者への弊害を理解しており、やむを得ず退職した場合も、時折ホームを訪れ、利用者への影響に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は県や地域の研修を実施する立場にあり、研修予定表を掲示して職員の希望を入れ参加できるように配慮している。法人全体の内部研修も年に数回実施している。研修に参加する時は出張扱いとし、自主参加の場合は交通費を支給したり資格取得も奨励し、レベルアップに取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、グループホーム協議会北部地区の理事をしていることから、研修会を開催したり、地域のグループホームからの相談に応じたり、介護支援専門員協会とのネットワークづくりも行っている。職員も他のグループホームを見学したり、研修会で交流してサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には必ず2～3回は本人、家族にグループホームはもとより法人全体の施設を見学してもらい、ホームでの生活が適切であるかを本人、家族と話し合い、同意の上で入居している。入居後も家族と相談しながら徐々に馴染めるように取り組んでいる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者も職員も同じ家族として、できることや希望により、家事やチャボの餌やり、食材の買い物や食事の準備、後片付けなどを共に行い、職員は利用者から漬物の漬け方や物の考え方を教えてもらうなど支えあう関係を構築している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族からの情報とあわせて、職員全員が観察や会話の中から、利用者一人ずつをセンター方式の「私の姿シート」に記入して利用者の不安や悲しみや願い、介護や医療への要望、好みや喜び等の把握に努め、職員間で検討しながら希望の実現に取り組んでいる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員全員によるセンター方式のアセスメントと家族の意見をカンファレンスで検討し、介護支援専門員が介護計画を作成している。家族には作成した介護計画を提示し同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>変化のあった場合は医師又は看護師、家族と話し合い随時見直し、変化のない場合も3か月に1度はモニタリングを実施し、家族も参加して担当者会議を開催して見直し、新たに介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同敷地内の併設施設と連携し、希望により特別養護老人ホームやデイサービスの行事に参加しており、通院や個人的な買い物、外出などにも柔軟に対応し、状況や要望に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向にそった支援をしている。緊急時や夜間は、併設の特別養護老人ホームの看護師や嘱託医、協力病院の協力が得られる体制がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化及び終末ケアについては、本人の意思、家族の協力、医師の対応の可否、職員の意思の4者が一致した場合に受け入れることをマニュアル化し、病院や特別養護老人ホームも視野に4者で十分に話し合っ方針を共有している。。過去2例終末ケアを実施している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護について管理者は職員の採用時に説明して、承諾書に記名してもらっている。記録等は事務所にファイルし、介護上の言動も日常的に配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は設けず、心身の状態や天候により、散歩や買い物、ドライブやデイサービス、特別養護老人ホームの行事への参加など、希望を聞きながら利用者本位のペースで支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物から食事の準備、後片付けなど希望により利用者に手伝ってもらっている。職員も利用者と同じテーブルで会話を楽しみながら和やかに食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	意思表示できる方が少ないので、週3回は入浴するように支援している。入浴拒否が多いのため、1日の中で精神的に落ち着いている時に声かけて対応している。法人内に個浴、中間浴や機械浴など浴室が4か所あるので、身体機能による入浴が可能である。また、入浴剤を使用して気分を変えて楽しめる工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や力を活かした役割や趣味、裁縫やチャボの餌やりなど関心のあることを行い、生きがいとしている。ドライブや散歩を好む方も多く、生活に取り入れて楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は、ホーム周辺の散歩や買い物に出かけている。地元の利用者が多いので、馴染みの場所が喜ばれている。そのほか、季節の花巡りに出かけたり、希望により併設施設の遠出に参加するなどの支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけることの弊害を理解しており、夜間以外は施錠していない。庭への出入りも自由で開放的であり、不穏な様子を察知した際は適切に対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	スプリンクラーや法人全体の緊急通報システムが設置されている。消防署による併設施設との合同避難訓練を年2回実施し、法人として地域との協力協定が取り交わされており、近くの障害者施設や地域との合同避難訓練も年1回実施して災害時に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内に4人の栄養士がおり、1名がホームの献立を作成して栄養バランスのよい食事を提供している。利用者と食材の買い物時に希望するものがあれば献立を一部変更して取り入れている。一人ひとりの力量に合わせているが、限界まで咀嚼することや箸を使うことで機能の維持に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	円形の建物の中央に椅子の置かれた中庭があり、前庭とも自由に入出入りができる。ホールの天井は高く、高窓からの採光も良い。フロアや周遊できる廊下は広く、所々にソファが置かれ思い思いに寛げる居場所がある。トイレも広く、玄関や台所は家庭的である。季節の花が飾られ、居心地の良さが感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての居室はベランダに面しており、明るく、自由に入出入りすることができる。ロッカーとタンスはホームで用意しているが、その他椅子やテーブルなどの調度品は好みのものを持ち込んでいる。写真や作品など個性的に飾り、安心できる居場所となっている。		